

30

銀の問題

經濟聯盟調查彙報第十三號  
昭和六年五月

日本經濟聯盟會

（以下に詳細な調査結果が記載されている）

本篇は國際商業會議所華盛頓總會に出席の日本代表員に提供  
したる銀問題に關する調査資料を代謄寫印刷して會員の參考  
に供するものなり

昭和六年五月

日本經濟聯盟會

目次

- (一) 銀價の下落と其原因
- (二) 銀價下落の對策
- (三) 商品としての銀の下落
- (四) 貨幣としての銀
- (五) 銀價維持安定の爲めの國際的協定
- (六) 結語
- 〔附屬書、一〕 銀價の不安と銀價安定の爲めの協力
- 〔附屬書、二〕 支那政情の不安

以上

## 銀の問題

### (一) 銀價の下落と其原因

歐洲戰前一オンス(純分〇・九二五)廿三、四片乃至廿六、七片であつた倫敦銀塊相場は戰時中大體騰勢を續けて一九二〇年二月には八十九片半の最高に達し爾來歩調を轉じて低落傾向を辿り一九二七年頃から略戰前狀態に歸つたのであるが一九二九年秋に至つて低落の度合が著しくなり昨年は十四片臺に崩落し本年二月に至つて遂に現物十二片先物は十二片を割つたこともあつた。

斯くの如く一九二九年以來續々記録的の安價を現した。原因に就ては誰れの意見も殆んど一致して居るのであるが大要左の通りである。

### A、貨幣銀需要の減退

印度、佛領印度支那、ベルシャ等の貨幣制度は近年相繼で銀本位を捨て金本位の一種を採用し従て本位貨幣用の銀

需要を減退せしめた事が主たるものである即ち印度は一九二六年八月議會に提出せられたる一留比を一志六片と定めたる所謂 *Ratio Bill* が通過して金本位制が布かれた、佛領印度支那は一九三〇年一月から銀本位たりし「ピアスタ」を事實上佛貨十法に安定せしめる方針を採り遂に同年五月に至て之を法律上確定して同じく金本位制を採用した、「ベルシャ」も一九三〇年三月に貨幣制度改革を斷行して金爲替本位を採用し「*Reynal*」を英貨一志と取極めた、爾來留比銀貨、「ピアスタ」銀貨等は依然通貨として流通して居るのであるが兌換に要する金地金又は爲替の準備さへあれば紙幣で國內通貨は賄ふ事が出来るのであるから新に之等の銀貨鑄造の要はない従て貨幣用銀需要の著しき減退を見たのである。

二

### B、供給の増加

(一) 銀本位國が金本位の一種を採用したる結果兌換準備として金又は金爲替資金の必要を生じ従來政府又は發券銀行の所有せる不用準備銀を賣却して金資金を集めることとなつた、市場に於ける銀の供給が夫れ丈け多くなつた譯である。此種の處分銀は印度政府分一九二七年以來九千六百萬オンス、佛領印度支那分一九二九年以來三千二百萬オンスに達して居る。

此外戰時戦後に互りて各國の補助銀貨の品質が切下げられた例へば英國の如きは一九二九年に九二五品位より五〇〇品位に低下せしめたのである、又佛國の如きも以前の五法銀貨や其他の古い銀貨を鑄潰し之等の餘剩銀の市場に出

た量は一九二九年に英佛兩國より各一千萬オンス、一九三〇年には佛國より二千二百萬オンスと見積られて居る。

(二) 古い銀からの供給は前述の通り増加したが新銀生産は如何なる状態にあるかと云ふに戦前に於ては年額二億二千萬オンス内外であつたが、戦時中は一億七八千萬オンスに減退し、一九二二年より漸く二億オンスを恢復し爾來二億五六千萬オンスとなつて居る、普通ならば銀價崩落の結果は其生産量を減退すべき筈であつて現に一九三〇年生産は前年に比して一千七百六十萬オンスの減少となつて居るが銀は其生産の三分の二乃至四分の三迄は銅、鉛、亜鉛、金等諸金屬の副産物として出るのであるから之等諸金屬の生産が各自の市價其他の關係で繼續せらるる限り銀は副産物として其市價如何に關せず自然的に生産せらるることとなる、従て市價下落の影響は直接銀を主産とする銀坑に現はれるのみである、之が爲め銀の生産は銀價崩落に拘はらず案外減退せぬのである。

今銀を副産物として出す銅に就て見るに昨年十二月紐育 *Evening Post* 紙上に於いて *A. J. M. Sharpe* 氏の發表する所に依れば世界銅の採算可能生産率は

生産費	世界銅採算可能生産率
七仙七以下の場合	二〇・二%
八"八以下"	四三・二%
九"九以下"	六三・一%
一一"〇以下"	七四・六%

三

であるが銅貨は昨年中一封度付米貨十八仙より十四仙臺に引下げられ更に最低九仙臺迄暴落したが現在假りに十仙として銅採算可能生産率は前表の通り六割三分となるから夫れ丈け副産物たる銀の生産も減退する道理であるが、銅價が上騰すれば銀價の變化なくとも銀生産の量が増加すると云ふ事になる、即副産物としての銀の生産統制は甚困難となるのである。

此外更に考ふべきものは

### C、銀に對する信認 (Confidence) の喪失

即銀に對する需要の減退特に貨幣として銀の驅逐傾向は一般に銀の將來に對する信認を喪失せしめて實需給關係以上銀價を低落せしめたる事。

### D、世界的一般物價の低落

最近印度財務長官は銀に關する聲明の内に五年前の價格を基礎とすれば現在の指數は錫は四十二、鉛は四十五、亞鉛三十八、銅七十八に下落し銀四十六は銅を除き他の金屬よりも高位にあると云つたと傳へられて居る、銀も商品である以上他の商品と共に其價格の低下を見るに不思議はないのである。

## (二) 銀價下落の對策

以上近年に於ける銀價崩落の諸原因に就て述べた其原因を究むる事に依て其對策は自ら明白となるからである。印度は昨年三月以來銀に對し一オンス四アンナの輸入税を課し更に本年からは六アンナに引上げた。

支那は昨年五月から銀貨の輸入と金の輸出を禁止した。「ベルシャ」「メキシコ」も各昨年一月と五月から銀の輸入を禁止した其他米國に於ても一時三十仙の高輸入税を課せんとするの議もあつた位である、併しながら之等は各其國內に於ける銀價を幾分高位に維持するの效果はあるにしても世界の銀に對する需要に障害を與ふるから却て世界的銀價の下落を助長することとなる、若し銀價の維持を目的とするならば需要の増加と供給の阻止を計て需給相出合ふ様にする外はないのである。先づ需要の側に於ては印度と支那は一昨年度二億一千八百五十萬オンス、昨年度二億一千七百五十萬オンスを吸収し之を割合で示せば

總供給額に對し	一九二九年	一九三〇年
	六六・六三%	六九%
新生産額に對し	八三・七四%	八九・二四%

となり此兩國で大部分消費せられて居るのである、印度に於ては國民の貯蓄及裝飾用として又支那に於ては此外貨幣用として因襲的愛銀慾があるから此の二國の輸出貿易が好調ともならば銀需要の増加を來すのであるが此不景氣時代

に果して之は可能なるべきか甚疑はしい。

六

工業美術用に就ては Fine 用としては現在一千二百萬オンスの消費ありとされて居るが活動寫眞發展と共に此方面の需要は漸増すべく又美術品は別とするも「ナイフ」「フォーク」等日用的銀器需要は銀價の下落と共に増加の傾向にあるべきは一應は考へらるるも十三片臺に崩落せる現在銀價を以て最近の卑金屬相場と比較するに銀一に對し尙且つ

クローム 七 ニッケル 一三 錫 一七 銅 四四

の割合にあるが故に銀器の一般的使用を想像する事は困難である。

各國補助銀貨の需要は人口の増加に依り自然的増加すべきである。併しながら補助貨用として銀以外の代用品を使用し又は其銀品位を低下せしむるの現代に於ては却て此方面の需要減退すべき事既に述べたるが如し。

次に供給の側に於ては

「メキシコ」方面銀坑の閉鎖もあり又銅生産制限其他諸金屬不況の爲め副産物としての銀量低下に依り新生産に於て幾分の減少を見るべきは想像に難くはない。

而して生産以外の供給は如何と云ふに

佛領印度支那は一昨年以來既に準備銀の處分したる高は三千二百萬乃至三千五百萬オンスに上て居る現左「ピアスター」銀貨の國內流通高は不明であるが昨年十月に於ける印度支那銀行の發行券一億三千七百萬「ピアスター」に

對し二千三百萬「ピアスター」の硬貨準備を保有して居る之れは凡そ銀行券の割六分餘發行券と預金との合計二億一億「ピアスター」の割一分に當り「オンス」に換算して約一千七百萬見當となる。此外「スペイン」に於ても中央銀行たる「スペイン」銀行發券準備として約九千八百萬オンスの銀が保有されて居る、同國の幣制は今後如何に動くか夫れに依て銀の處分も考へらるるのである。

併しながら銀市場に最も脅威とせられて居るのは印度政府の處分銀である。

印度政府は一九二七年以降年々二千萬乃至三千萬オンスの銀を處分して其額合計九千六百萬オンスに達するとされて居る。然るにも拘はらず一九二六年七月に於て九億六千八百萬留比なりし銀準備額は現在十二億留比にも上て居る所よりすれば流通裡又は奥地に蓄積された留比貨が續々回收されたと見るべきである、一九二六年の「ヤング」委員會の提案に依れば一九二九年一月より十年後に於て準備額を二億五千萬留比に減少せしめんとし、翌年更に之を五億留比に修正されたが今後處分さるべき銀の總量は同委員會に提出された、印度大藏省の A. C. Mewster 氏の調査に依れば（單位百萬留比）

一八三五年以降留比銀貨鑄造高

六、四七五

内改鑄されたもの

八五〇

引揚及消滅したもの

七〇〇

國境外へ流出したもの及其他

九二五

七

右に對し

流通圈内より引揚不可能と見られたるもの

(人口三億、一人宛り五留比と見て)

今後の補助貨鑄造用

準備最低所有額

差引結局十年間に處分し得る高

之を「オンス」に換算して 六億二千五百萬となる

參考迄に本年の需要と新産額の豫想を見るに

需要	千オンス
支那	九〇、〇〇〇
印度	九〇、〇〇〇
工業、美術用	三五、〇〇〇
貨幣用	一〇、〇〇〇
計	二二五、〇〇〇

殘高

四、〇〇〇

八

一、五〇〇

一八〇

五〇〇

一、八二〇

### 新生産

副産物としての銀を昨年と同額として

一六四、四二五

メキシコ産銀の内四分の三を銀鑄造とし此昨年度産出  
七九、二七五、〇〇〇オンスの二割三分六厘減として

六〇、五七五

計

二二五、〇〇〇

以上述べたる所に依り需給關係を考ふるに新生産と舊銀との合計供給額は今後とても大體に於て全需要に超過するものと思はれる、而して需要の増加に大した期待が出来ぬとすれば銀價維持の爲めには差當り供給を制限する外には道はないのである。

### (三) 商品としての銀の下落

併しながら商品としての銀の價格下落は然かく重大問題として取扱はれべきものであらうか、前に述べたる通り錫、亜鉛等は五年前の價格に比し銀より一層の低落を見て居る其他殆んど大部分の商品は半額になつて居るのである。勿論銀價の崩落は銀生産者又は其保有者に打撃を與ふべきは申す迄もないが其他商品の生産者も同様打撃を受けて居るのであるから特に銀に對し價格維持策を講ずる謂はれは毫もないのである、唯銀は尙貨幣として世界の一部に存在を認められて居る、此特殊機能を持つて居る爲めに問題が重大化するのである、以下此點に就て考察を進めたい。



#### (四) 貨幣としての銀

補助貨として銀の使用は殆んど世界的である、併しながら之れを純然たる本位貨幣として現在認めて居る國は先づ支那丈けと云つて差支へない、従つて銀價の變動は直に支那貨幣價値に反映するのは當然であると同時に世界的餘剰の銀は自然に支那殊に上海に流れ込むこととなるが故に奥地向の銀需要の旺ならざる限り上海に於ける在銀高は増加し之が又逆に世界的銀價に反響を與へて其低落を一層甚しからしむる作用をなすのである、孰れにしても銀價不安定たる間は支那の貨幣價値の安定は望まれない、殊に銀價下落の場合は支那の購買力減退となり、財政上の不如意となり貿易の衰頹を招き惹ては世界的不況の一大原因ともなる事は概略後述の通りである。(「附屬書」参照)

#### (五) 銀價維持安定の爲めの國際的協定

銀價の維持は畢竟するに國際的協調に依つて銀の需要増又は其供給減を策するの外に道はない、之が方法として今迄に各地に種々の提案がされたと聞く其主なるものを左に掲げ之に對する批評を簡單に述べて見よう。

A、米、英、佛、日、墨の各國が國際銀「プール」を組織し支那の交通産業開發の爲め低利且つ長期の銀貸出をなしては如何。

在銀過剩に苦しめる支那に之れ以上銀を注入するは苦痛を加重する事となる。

B、英國は印度をして剩餘銀投資政策の即時撤廢を聲明せしめては如何。

(以上ピットマン氏意見)

印度に新幣制策の地棄を強制することとなり、印度としては出来ない相談である。

C、金は年々産額減少するが故に之を補充する意味に於て銀價を二十四片位に安定し世界各國が再び銀貨を使用する様しては如何

(南亞合同金銀會社重役「ブラットホーン」卿意見)

金銀複本位制一般的協定は困難なるべし。

D、歐米諸國は毎年數百萬オンスの銀を買上げ銀貨の純分を増し、小額紙幣の代りに成べく銀貨を流通せしむる様する事且未だ金本位に復歸せざる國は成るべく復歸を急がざる事。

(Irving Trust Co. 意見)

各國の利害實情を無視したる意見にして出来得べき相談でない。

E、米、英(印度を含む)佛(佛領印度支那を含む)日、支、スペイン等出来得る丈け多くの政府間に一定期間或は追て通告ある迄各政府所有銀を一定の價格(例へば一オンス五十仙)以下は賣らぬ様な非公式諒解と右價格以下に下落せし場合は各國政府は許されたる所有量の銀購入をなす諒解を成立せしめ各國政府殊に印度政府は協定價格より例へば五仙以上上騰の場合は何時にても政府所有銀を賣出し得る協定をなす事

(American Smelting & Refining Co. 会長 Francis H. Brownell 氏意見)

銀價動搖の防止には良策ならんも各國の利害と實情を無視したる點並に印度の立場を制限せる點に於て纏まり難かるべし。

F、英帝國內に散在せる金準備二億四千萬磅を「プール」して帝國內の發券銀行及政府を株主とする帝國銀行を新設し此金準備を基礎として Res なる新通貨を發行し新に金銀複本位制を確立し銀を一定の價格にて買上る事。

(Midland Bk 重役 J. F. Darling 氏意見)

英帝國內の金銀複本位である維持困難なるべし。

G、歐洲各國の對米戰債の一部を銀で拂つては如何、假りに一年三億弗の戰債を拂ふとして其一割即ち三千萬弗丈けれども銀を拂へば一オンス五十仙としても六千萬オンス買へる、銀價維持には十分である若し米國許り負擔せしめる事可ならば歐洲各國も補助貸用として各一定量を買つては如何。

(某米人意見)

戰債關係國の利害と實情を省みざる議論にして實現性に乏し。

H、工業用需要の増加は漸を追ふの外なきも工藝用銀消費を促進する爲め銀器の大量生産により價格を安くし民衆化を計ては如何。

銀器の民衆化には尙銀價高きに過ぐ。

大體右の様であつて何れの提案も甚だ實行性に乏しい様であるが此際關係各國が生産者たると供給者たるとを問はず宜敷最も公平なる立場より現在に於ける世界銀消費額を標準とし夫々生産及其他の供給制限並に擱上の方法により需給調節の國際的協定をなす様に進展せしめんことを希望するのである。

#### (六) 結 語 (支那の今後採るべき道)

若し夫れ上述したる如き國際的協定に依る銀の世界的需給の調節實行不可能となり、或は之が可能とするも長期に亘つて銀價の維持安定は到底望まれぬものとすれば結局殘されたる道は唯一あるのみである、即ち支那をして銀本位を拋棄して金本位に就かしめる外はない、斯くして世界主要國の貨幣制度を金本位に統一せしむる事が出来たならば茲に初めて世界の貨幣は銀より解放せらるる事となる勿論唯一の根本位國が銀を拋棄するとなれば銀價は更に甚しき崩落に見舞はるるは明かなるも最早銀は一の商品に過ぎぬ從て其價格動搖に吾等の關心すべき範圍は甚だ狭まる。

金本位に轉換する方法に就ては昨年發表されたる國民政府顧問ケムメラ博士案は金本位制の新單位「孫」を單に名目に止め、國內に金鑄貨を通用せしめず、銀の時價三分の二に當る、銀孫貨を作り其他の補助貨並に中央銀行金本位紙幣と共に流通せしめ此銀鑄造益を以て三億三千万米弗の基金を積みて在外正貨とし之を以て金爲替本位制を實施せんとするにある。

之に對し中國銀行張公權氏は今直に實質以上の價值を附與したる新銀貨「孫」を鑄造するも國民は容易に之が受授

を背せざるべし。

寧ろ従来の通貨たる弗銀を以て一先づ統一の方針を探り所謂廢兩改元を行ひ銀の輸入は政府一切之を管理して一手に行ひ弗銀を嚴重統制の下に一定の價値を維持せしむるに成功したる後徐々に金爲替本位に移るべしとの意見である。

最近の新聞には愈々ケムメラー案に依る金本位採用に決したと報ぜられて居るが、弗銀又は孫銀の金に對する比率を如何に定むべきやは今後の問題であらう、國內物價は銀價下落の爲め相當の騰貴を見たるならんも未だ盡く爲替の下落に追從せぬ模様であるが故に物價指數を以て弗の國內購買力を測定し金との平價となすも一案なるべし。最後に金爲替本位に對する在外資金の問題が残る、此點に關して先づ支那の國際貸借の狀態を検討するに貿易は年々入超となるも貿易外收支に於ては移民の送金、外國人の國內消費等相當多額に上るを以て國際貸借全體としては寧ろ受取超過となるものと推定せらる之れは毎年銀塊輸入超過あるを以てしても大體首肯せられるのである。

果して然らば金爲替基金維持に就ても案外容易に解決せられ得るにあらざるか、勿論金爲替實施當初に於ては基金創設に相當の困難も伴ふべく、從て實施期如何に依りては或は外債の援助を要するなるべし、此點より見て國內政情の安定、財政其他法律制度の整備、國際協調の促進は支那に取つて一日も早く解決すべき問題であると考へるのである。

〔附屬書一〕

銀價の不安と銀價安定の爲めの協力

一九二九年下半年期以來急激なる下落を開始した銀價は、昨年一月には二〇片臺となり、世界の耳目を聳動せしめたが、その後愈々悪化の度を増し、逐月新安値を出し、本年は一月早々十三片臺となり、中旬には現物十二片、先物十片臺を示すと云ふ慘落振りとなつた。

これがために、支那の如き純然たる銀貨國は云ふ迄もなく、印度其他の銀保有國にあつても購買力及資産の急激なる低下を來し、信用取引を阻碍するに至りたるは勿論、之等諸國を對手方とする諸外國にあつても、端倪すべからざる銀價慘落の爲めに採算の基礎を破壊され、貿易狀態は悪化を來し、さなきだに世界不況の渦中にあつて萎縮したる極東貿易は、ここに何等かの對策を考究せざるに於ては愈々衰退することになり、一般經濟界にも計り知るべからざる禍害を危惧せらるるに至つた。

抑も、今日の銀價慘落によつて蒙る禍害は之を正確に知るためには三つの方面より觀察しなければならぬと思ふ。

第一は銀の生産國の損害であり。

第二は銀貨國のそれであり。

第三は銀貨國を顧客とする輸出國の損害である。

即ち、商品としての銀相場下落は銀の生産者を脅やかす事は云ふ迄もない。銀の生産額は世界を通じて年約二億五千萬オンスであるから、その相場が一九二九年初頭の二六片十六分の七より今日の十二片に下つたとすれば、その間約一千五百萬磅、五割四分餘の大損害を來すわけである。

而して世界の銀産額は左記の表にも明かなる通り、全産額の四割二分餘は「メキシコ」が占め、合衆國は二割二分、加奈陀が八分五厘、この三者合計で全産額の七割三四分を占めてゐるのであるから、銀生産上の損害としては殆ど北亞米利加洲に限られたと云つても差支へなく、「ペルー」の八分四厘も亦考慮に入れねばならぬが、その他は何れも産額僅少、別に取立てて云ふ程の事もないやうである。

World Production of silver, 1928.

(アメリカノミニントレポート、單位千オンス)

North America:		
United States	58,426	22.8%
Canada	21,936	8.5
Mexico	108,537	42.4
Total	188,899	73.8
Central America & West Indies:		
South America.	2,559	

Peru	21,608	8.4
Others	7,275	
Total	28,883	
Europe	10,889	
Asia		
British India	7,426	2.9
Japan	4,532	1.8
Others	2,510	
Total	14,468	5.6
Oceania	10,309	
Grand Total	256,007	

この中でも銀の専門産を有し、世界銀産額の四割二分餘を産出する「メキシコ」の備みは最も大きい事は云ふ迄もない。聞く所に依れば「メキシコ」の銀産では銀價慘落のために、痛烈なる打撃を蒙り、閉鎖、廢坑等のために、既に數千の失業者を出したとの事である。

商品としての銀の下落は以上の如くであつて、その生産者の蒙る損害は鮮少なからざるものであるが、併し之を貨幣としての銀の下落の一般經濟界に及ぼす損害に比すれば割合が甚だ小さい。

扱て然らば銀本位國は斯の如き銀相場の暴落によつて如何なる苦痛を感じつつあるか。

先づ支那に就て之を見なければならぬ。

銀價の暴落は銀本位國に於て必然的に金價の暴騰を招き、金本位國に對する爲替の暴落を來す。此の現象に次いで起つて來るのは、國內に於ける物價の騰貴と而して購買力の減退である。

今試みに、國際聯盟調査にかかる過去一ケ年に互る支那の物價指數と日、英、米のそれとを比較すれば左の如くである

### 支那と日英米の卸 賣物價指數比較

1930	日本	支那	英國	米國
Jan.	152.2	169.6	123.7	133.8
Feb.	151.0	174.7	121.0	131.9
Mar.	148.1	173.9	119.4	130.1
April.	145.7	174.2	117.2	129.9
May	143.1	173.4	115.8	127.7
June	137.0	185.9	113.2	124.4
July	133.5	190.1	111.5	120.3
Aug.	132.7	189.4	109.3	120.3
Sept.	129.6	187.5	105.2	120.6
Oct.	124.4	182.3	104.0	118.3
Nov.	122.4	177.7	101.9	—
Dec.	121.7	177.7	—	—

右は何れも一九一三年を一〇〇としたる指數であるが、英、米並に我國の物價が逐月急落しつつあるに對し、支那の物價が一向低下の氣勢なく、寧ろ昂騰氣配を示して居る事が看取されるであらう。これは支那大衆の生活が、一面に於ては世界不況に基く物價下落と、他面貨幣價値の値下りと云ふ、相反した二方の作用を受けて、今日の如き世界的

低物價時代を尻目に騰貴歩調を続けつつあるのである。

この點からすれば支那は、銀價低落による損害を一般物價の低落によつて、「カバー」せられ、略々安定を得るが如くにも考へられ、支那の經濟生活に不安なきが如くにも想像されるが、事實は寧ろ逆である。蓋し銀價の暴落は中國の物價騰貴を刺激し企業家の利潤を増すと共に對外的には爲替相場の上落となり、列國の對華輸出に高い障壁を設けて、國內工業のために事實上の保護關稅の役割をつとめ、更に又中國商品の失はれたる外國市場の回復に有利なる條件を附與した事は一應は考へられるが、事實は果して如何であつたか。

生糸が米國市場に於て一時相當活躍し、南洋方面への雜貨が幾分増加したと傳へられたが爾餘の輸出商品に至つては銀塊相場不安のために、却て見送らるる事が多く、何程の効果も擧ぐるに至らず、原料品を外國に仰ぐ主要諸工業のうち、燐寸、煙草、砂糖の如きは銀安に依る輸入原料の騰貴のために苦痛を感じて居る。

要するに銀價安の民國企業界に及ぼす影響は、一見有利なる如くにして、實は何等の建設的效果を與ふるに至らず、寧ろ急激なる爲替相場の動搖は國民産業に對し、強烈なる打撃を加へ、商業の停頓、信用取引の破壊を招致し、前途に對する不安を激成したに止まる。

更に政府財政の立場よりして之を見れば、爲替相場の上落は自ら外債償還及び利子支拂の負擔を増加し、殊に漸く成立安定の端緒についた國民政府としては、國內諸造營に要する物資を多量に購はねばならぬのであるから、その苦痛は一層深刻ならざるを得ない。

これ即ち、貨幣制度改革の上に於ける支那朝野の主張が、最近特に眞剣となり來つた所以であり、海關を金建に改めたり、金塊の輸出を禁止し、外國銀貨の輸入を禁止し、又金の投機賣買に關する取締令を發した如き、何れも銀貨落の打撃を免れんとする必死の努力に外ならぬ。以上の如く銀價低落より受くる銀貨國の悩みが痛烈である事は云ふ迄もないが、これら銀貨國を對手とする輸出國の痛手も更に之に劣らぬものがある。

蓋し四億の大衆を擁する支那は世界産業の大市場である。さなきだに生産過剩に悩まされてゐる各産業國家にとつて、支那市場の購買力喪失が如何に大きい打撃であるかは今更改めて説くまでもあるまい。

今日日本の對支輸出を實際に就て見るに、

對支輸出	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	前年との比較
支那	三三三、一四〇千圓	三四六、六五〇千圓	二五八、〇五七千圓	減 二五・六%
關東州	一一〇、一九〇	一二四、四七〇	八六、一七九	" 三〇・七%
香港	五六、二〇〇	六一、〇六〇	五五、一八九	" 九・六%
計	五三九、五三〇	五三二、一八〇	三九九、四二五	" 二四・九%

昨年輸出累計三億九千九百萬圓、之を一昨年同期に比して二割五分の減退、一九二八年に比較し、約二割六分の減退である。之を主要商品別に見ると、

一九二九年

一九三〇年

品名	一九二九年 數量	一九二九年 價格	一九三〇年 數量	一九三〇年 價格	數量の減退率	價格の減退率
綿糸	五二、九一	六、六五一	三四、五〇七	二、五八〇	三三・八%	六一・二%
綿織物	五三〇、六〇五	一五〇、一一六	四三六、四〇六	八六、九一四	一七・八%	四一・二%
小麦粉	一、七八六	八八〇	一五、六七二	三三七	四三・七%	三六・七%
水産物	七三五、一七七	八、七二七	六六二、〇一五	五、九七五	一〇・〇%	三一・五%
精糖	二、三九五	四八四	二二、三四〇	三、一一二	三三・二%	二・〇%
絹織物	—	四、四三八	—	二、一一一	—	五二・四%

精糖の如く、數量、金額共に増加して居る例外的なものもあるが、その他は殆ど、數量に於ても、金額に於ても、驚くべき減退を來して居る。

併し乍ら支那への輸出が減退したのは、獨り日本のみに止まらぬ。

支那と關係深き英、米、獨の對支輸出の上にも同様の現象は現はれて居る。

國名	一九二九年 數量	一九三〇年 數量	減少率
英國	一一、〇五八千磅	六、七九七千磅	三八・五%
アメリカ	一五五、六三四千弗	一一二、九八一千弗	二七・五%

「註」英國と獨逸は一月より九月迄の數字、他は總て全年分比較。即ち英國の減少率三割八分五厘を筆頭とし、何れもかなりの減退を示して居る。尙之を夫々對外輸出貿易總額の減退割合と比較する時、銀價暴落による影響の大きさが更に明瞭に示される。

獨逸	一五二、七八三 千馬克	一二〇、七五四 千馬克	二二・〇
日本	五三二、一八〇 千圓	三九九、四二五 千圓	二四・九
英國	一九二九 千磅	一九三〇 千磅	減退率
アメリカ	六二七、六九九 千弗	五〇八、七九四 千弗	一八・九
獨逸	五、二四一、〇〇〇 千馬克	三、八三七、〇〇〇 千馬克	二六・八
日本	一〇、〇五一、〇〇〇 千圓	九、一二九、〇〇〇 千圓	九・一
英國	二、一四八、六一九 千圓	一、四六九、八五二 千圓	三一・六

「註」英、獨は一月より九月迄の數字、日、米は全年分比較、  
英の對外輸出貿易の減退率は僅かに一割八分九厘に過ぎないのに、對支だけに就て見れば三割八分五厘、その差一割九分六厘は當年に於ける「イギリス」紡績の不振、物價の下落等にもよる事と思はれるが、その一半の銀價暴落による對支輸出の困難に基くものと思はれる。  
「アメリカ」、獨逸にしても程度の差こそあれ、銀價安に禍ひされてゐる事は同様である。ただ日本だけが、一般

對外輸出の減少率が對支輸出の減退を遙かに上廻つてゐるのは、諸國と反對の道行をとるが如くで、一見不思議な現象と思はれるが、これに就ては昨年度に於ける輸出生系の値下りに基く生絲輸出額の減退四割六分餘に及ぶ事を考慮すれば、疑問は立ち所に氷解するであらう。

英國	一九二九 千磅	一九三〇 千磅	減少率
アメリカ	八、八〇五 千弗	七、四九二 千弗	一四・九
獨逸	一四四、八五一 千馬克	九二、三六六 千馬克	三六・二
日本	二七〇、二六三 千圓	二四三、二〇〇 千圓	一〇・〇
日本	三七六、九〇五 千圓	二七八、三七四 千圓	二六・一

「註」英、獨は九月迄の數字、「アメリカ」は十月迄、日本は全年。  
英、獨の對支輸入の減少率は輸出の減少に比すれば其差がかなり小さいが、代りに「アメリカ」及日本のそれは反對に開きを大きくして居る、更に之を支那側より見ると、

輸出額	一九二九 千海關兩	一九三〇 千海關兩	前年に對する増減
輸入額	一、〇一五、六八七	一、〇五〇、〇〇〇	増 三・一
	一、二六五、七七九	一、一五〇、〇〇〇	減 九・二

輸出に於ては三分一厘を増し、輸入に於て、九分一厘を減じて居り「バランス」だけから見ると、幾分好結果を來したかの如くに思はれるが併しそこに銀價低下に基く爲替相場の低下率を考慮に入れる事になると、貿易總額に於て約二割八分見當の減退を來す事となり、銀塊相場の急落のために銀貨國もその取引國も如何に大いなる損害を蒙るに至つたか明かになる。

### 印度其他の諸國に就て

この現象は獨り支那に就てのみ云ひ得るのではなく、銀と密接なる關係を有する印度、「ベルシャ」その他の東、南の諸國に就ても云ひ得るのである。

ただ支那以外の諸國は純然たる銀貨國ではなく、従つて銀價慘落のために支那程觀面の打撃は受けないのである。併し從來銀貨國として將又銀の愛好者として蓄積したる巨額の銀資産が今では一九二九年初頭に比して五割以上の値下りを來したのであるから、之が一般人氣の上に而して一般購買力の上に大いなる作用を來すに至るは當然であらうこの中、三億五千の人口を有し、極東貿易上に偉大なる地位を占むる印度は昨年春偶々綿布關稅の引上を行ひ、且つ反英抗爭の餘波として猛烈なる外國品不買運動を行つたために、銀價慘落の影響は之等有力な材料の蔭に隠れて殆ど見るを得なかつたが、大雜把に四十億乃至四十五億「オンス」と見積られて居る國內の銀が、半値になつたとすれば其影響たるや輕少ならざるは云ふ迄もない。

今印度の最近貿易額に就き昨年度と一昨年度を比較して見ると左の如くである。

印度の輸入額 (四月—十一月)		印度の輸出額 (四月—十一月)	
對 英	一九二九 六九〇、三四七	一九三〇 四三六、三四四	減少率 三六・八%
對 日	一九二九 一五五、〇七四	一九三〇 九六、〇三九	減少率 三八・〇%
對 米	一九二九 一二四、二九六	一九三〇 九六、七七〇	減少率 二二・一%
對 獨	一九二九 一〇八、二九九	一九三〇 八三、二九三	減少率 二三・〇%
其他	一九二九 五四八、四八四	一九三〇 四〇八、五七八	減少率 二五・五%
計	一九二九 一、六二六、五〇〇	一九三〇 一、一二一、〇二四	減少率 三二・〇%
印度の輸出額 (四月—十一月)			
對 英	一九二九 四七五、七三四	一九三〇 三七四、八四四	減少率 二二・二%
對 日	一九二九 一九二、四四一	一九三〇 一三七、二二二	減少率 二八・七%
對 米	一九二九 二四二、二九九	一九三〇 一五三、一四六	減少率 三六・八%
對 獨	一九二九 一八七、七一六	一九三〇 九九、三二二	減少率 四七・〇%
其他	一九二九 九九三、一八〇	一九三〇 八〇六、五〇九	減少率 一八・八%



### 銀價安定のための協力

要之、目下世界を脅やかしつつある不景氣原因の最たるものは、確かに一般物質の生産過剰であり、之を反面からすれば世界の購買力不足である。かかる購買力不足の世界市場にとつて、支那を始め、印度其他の銀の國々が銀相場下落に伴ひ、更に購買力を減退するに至るは世界の不幸を更に加重するものである。

思ふに銀相場の下落はもと、世界不況によつてもち來されたる一現象であつたかも知れないが、結果はいつしか原因となり、今や銀相場の下落は、却て之を世界不況の原因の一として算へねばならなくなつた。果して銀相場の下落が現下世界不況の有力なる一原因とすれば銀價の慘落を今日の狀態に放任する事は、それは取りも直さず世界不況を更に倍加せしむる原因である。従つてこの際銀價の暴落を防ぎ、安定を計る事は最も大切であり、尠くとも今日の如き急落歩調緩和し、急激なる衝動を經濟界に與ふる事を避けねばならぬが、從來銀價の維持對策として傳へらるる所を見るに、或は國際「プール」案、新復本位制、對支國際借款案、銀の世界的不賣協定、銀處分延期勸告案、銀貨の純分増加案、金銀比價公定説、その他數へ上ぐれば十指にもあまる程あるけれども、而も之を公平なる立場よりして觀察する時、その或る者は單に銀生産者の急場を救済せんとするに過ぎないものであつたり、或はほんの應急策で結局に於ては却て銀の下落を助長するものであつたり、或は又あまりに理想案に過ぎて、他の國情、財政的事情等を考慮に入れなかつたり、で未だ眞に傾聴に價するものを聞くを得ないが、併し要する所、最近の銀價暴落の根源は、

一、印度、佛領印度支那、「ペルシヤ」等が金本位制の一種を採用するに至りたるため、貨幣用銀需要の減退したる事、

二、前記諸國不用銀の賣却、並に歐洲諸國の補助銀貨改鑄より來る剩餘銀の處分、

三、副産物としての銀生産統制の困難、

四、銀亦一の商品として世界的に一般物價低落と規を一にしたる事、

この四要素に歸せらると思ふが、これら四要素の輕重如何に就ては各人夫々の見解があるにしても、而もその何れの一項目を取上げててもその解決は個々の力を以てしては到底完全を期し得ないものであり、これは必然國際的協力を俟つて處置する外に道がないものである。幸ひにして此の機會に於て、右の情勢に照し、適正なる對策の考究せらるるに於ては、吾等はそれに對して如何なる協力をも惜むものではない。

### WORLD PRODUCTION

(In millions of fine ounces)

Production	1928	1929	1930
United States.....	58.4	61.0	50.4
Mexico.....	108.5	103.0	105.7
Canada.....	21.9	22.5	26.2

All other countries .....	68.4	68.0	61.4
Total Production	257.2	256.5	243.7
Other Supplies .			
Debasement of British coinage	5.5	10.0	
Demonetized coin			
French.....	19.0	10.0	22.0
Belgian .....	13.0	—	20.0
Sales by Indian Government	22.5	33.0	29.5
Total .....	317.2	311.5	315.2

WORLD CONSUMPTION

	1928	1929	1930
India			
Import from the United States			
Canada, England, France, Egypt,			
Australia and others .....	111.5	79.2	
Supplies from Government reserve		7.3	
sold in India .....	—	—	—
Less Export .....	111.5	86.5	
Net Indian Consumption .....	22.5	4.7	
Net Indian Co-consumption .....	89.0	81.8	94.5

China

Imports from the United States,			
Canada and England .....	104.9	133.3	
from India and Japan.....	19.1	3.4	
Chinese Consumption .....	124.0	136.7	123.0

Germany

Imports from the United States,			
Mexico, England and others .....	10.8	12.0	
Arts and Manufacturers :			
In the United States and Canada...	33.5	37.0	
In England.....	6.0	6.5	
Coinage :			
U. S. Mint.....	4.1	2.5	6.0
Poland.....	6.5	—	—
Russia .....	1.6	3.5	—
Holland .....	1.4	3.0	—
Hongkong Dollars .....	—	16.0	14.0
Unaccounted for .....	31.5	12.5	77.7
Total .....	308.4	311.5	315.2

### 支那政情の不安

現在支那政局の中心をなして居るのは南京政府であるが南京政府の進み方は中央集権であると共に蒋介石の獨裁制に向ひつつある。蒋介石の中央集権と獨裁的行き方は既に南京政府設立の頭初から最近に至つて益々色彩を濃厚にして來た。彼は北伐開始前既に兵權の統一を企て廣東にある凡ての軍隊を國民革命軍に綜合して自ら總司令となつたが政權及黨權の方面では共產黨及國民黨左派の力が優勢であつたため彼は共產黨及國民黨と離れて南京政府を作り政權を其手に收むるに至つたが次で共產黨を彈壓した。殊に昨年の南北大戦争の跡始末の爲の第四次中央全體會議に於ては北方政府に加はつた汪兆銘、馮、閻及其一派の黨籍を削除し自派の者で中央執行委員を補充した爲に中央執行委員會は全く蔣一派の獨占に歸した。蔣は今政府首席として大統領に該當する地位と總理大臣に當る行政院長を兼ね、陸海空軍總司令、黨部の最高權力者及組織部長として完全に政權、黨權、兵權を一身に集め全國的には又中央集権を企てつつある。彼の獨裁が進むと共に全國統一、中央集権は次第に促進されるが是に對して一方では地方分權の運動が相當に力強く動いて居る。一昨年以来の反蔣運動は實に蒋介石の武力統一に對する地方軍閥の地方分權的運動である。

顧るに一九二八年六月國民革命の前途に横はる最後の障礙物と目された奉天派軍閥が頭目張作霖氏の爆死に依つて完全に中原から驅逐され、國民革命軍の四巨頭蒋介石、馮玉祥、閻錫山、李宗仁（廣西派領袖）四氏の北京碧雲寺の孫文靈前に於て北伐完成即ち國民革命成功と見做し世を擧げて和平統一の大業成ると謳歌したのであつた。殊に同年十二月張作霖の死を繼いだ張學良氏に依つて中國國民黨々旗たる青天白日旗が東四省に掲揚されるに及び尙懷疑的觀察を下して居た者も國民政府の全支統一を事實として認めざるを得なかつた。然るに共和平状態は東の間に於て破れ一九二九年初頭南京に編遣會議が開催されるや國民革命に協力した蔣、閻、馮、廣西派の間に早くも反目を生じた。即ち蒋介石を支持して居る南京政府は中央集権及財政整理の必要に迫られ當時二百萬と稱せられた龐大な軍隊に對し裁兵の難事業に着手した爲に、馮、廣西派の地方軍閥の反感を買つた。一九二九年二月反蔣戰の第一矢は廣西派に依つて放たれたが廣西派は難なく撃破された。一九三〇年に入るや反蔣聯盟の盟主として閻錫山現はれ馮玉祥及國民黨極左派の領袖汪兆銘氏と提携して九月北方政府を樹立したが、張學良氏が中央擁護の態度をとつて關内に兵を進め陸海、空軍副總司令に就任するや閻、馮、汪三氏は各十月五日下野し、閻は大連に、汪は行方不明、馮は甘肅に落延びここに反蔣運動は一先づ終了した。

上述の如く反蔣運動は遂に反蔣派の失敗に歸したが然し之を以て反中央運動が終熄したと見るは早計である。馮、閻の二大軍閥は一時閉息したけれども此に代つて新に奉天派の張學良が乗り出して支那を黄河によつて南北二大勢力に分斷した。蒋介石は其統一の事業を進むるために奉天派を實力を以て屈服せしむる事の必要を信じ其爲には張の羽翼となるべき馮、閻を始末して張を次第に孤立に陥らしむる事は賢明な策であるから先馮、閻の解體に務めこれを分

離させて其一部は中央軍に編入すると共に馮の根據を覆す積りで陝西、甘肅に手を伸して居る。従つて是等中間勢力の始末に就て兩者の利害は相反して居る。これを如何に處置するかは和平の一障碍である。尙最近の報道に據ると四川省の將領劉文輝、劉湘、田頌、堯等は吳佩孚を盟主として反中央態度を明にし先月來軍事行動を開始したと傳へ、其他廣西には廣西派の殘黨が立籠つて居る等現今南京政府の直接統治して居る地方は長江沿岸の江蘇、浙江、安徽、山東、湖北、湖南の數省に過ぎない。

其他關稅自主に伴ひ國定稅率が實施されたる爲六千萬弗乃至一億弗の増收があると見らるるが之を中央が皆獨占すれば中央の勢力は甚しく強くなる中央政府は又鹽稅の抑留を禁じて之を中央に集中せんとし更に地方の有力なる財源である厘金を廢して中央直屬の統稅及特種消費稅を設け、營業稅を以て地方收入に充當せんとして居る。此の中央の財政統一が進めば中央集權は著しく進展して地方軍閥は甚しく不利を蒙る。更に中央は交通權の統一をも企てて居る。これに對して地方軍閥は如何に對應して行くかここに中央地方の利害衝突點がある。

蔣介石獨裁制の進展と集權分權の争鬭の外に支那政局の上に度外視する事の出来ないのは共產黨の活動である。共產黨は共匪、紅匪とも呼ばれ軍隊組織になつて居るので之を紅軍とも稱し其活動は一九二七年の夏に始り今年で滿四年目になるが此間國民政府が凡ゆる努力を拂つて討伐を試みたに拘らず事實は共產黨勢力の逐次増大を來した。殊に昨年の南北戰は戰期が著しく長かつたのと、兩軍が死力を盡して戰つた爲後方警備の著しき空虛を來した爲に共產黨の活動目覺しきものあり。昨年七月末には長沙を占領し南昌九江を脅し内外人に一大恐怖を與へたが戰爭終了後も依

然として跳梁を逞しうし湖南常德に迫り江西の吉安を陥れ京漢線を荒し長江汽船を射撃したため蔣介石は張學良との南北協定を終るや十二月五日軍艦に乗じて江西に進み自ら共產黨の討伐を指揮するに至つたが依然として江西、湖南、福建に猛威を奮ひ江西省だけでも共產黨拾貳萬七千人と稱せられて居る。

殊に問題となるのは共產黨の活動範圍が最近著しく擴大されて來た。始め湖南と廣東を主とするものが昨年の始めまでは湖南、湖北、江西、福建、廣東の五省から江蘇の一部に及びそれが今日では次第に北方に伸びて安徽から河南に擴がり更に北進しつゝある。共產黨は始め農民を以て組織されて居たのと異つて貧農の外に兵卒及土匪との連合が成り是が共產黨の勢力を増大した一つの原因となつて居る。

共產黨の外に支那には土匪及會匪なるものが横行して居る。會匪は神匪とも呼ばれ鄉村に於る紅槍會等の迷信的自衛的團體が悪化して共匪的或は土匪的行動を取つて居るものゝ事河南の東部、南部から湖北の北部、西部、江西のかけて蔓延して居る。此等各匪の成因に至つては種類と地方により夫々趣を異にして居るが最も一般的且主要なもの北部には連年の天災、兵禍、匪患さては政治の不良苛稅の頻興等に因り一般人民の生活困難と失業者の激増を招き遂に懦弱なる者は流じ餓死し狡猾なる者は身を匪群に投ずる者少くない。或は裁兵の結果失職したる軍人は歸農せんとしても耕作すべき土地が無く結局土匪となり而も共產黨は土匪を併合し或は會匪に喰ひ入り土匪、會匪も自ら共產化するもの少くないので其勢力益々増大して行く傾向ある事は國民政府に取つて正に腹心の災であらう。

現今支那は蔣介石の率ゐる南京政府によつて表面上統一された。併し彼の獨裁制を繕はぬ地方軍閥が何時反旗をひ

るがへさなとも限らない。然も内には人民の經濟生活に深く喰ひ入つて居る共産黨が益々勢力を得つゝ隙を窺つて居る。茲に共産黨暴行の一例を挙げれば各省服務委員會の報道に據ると江西二省だけでも燒却の厄にあつた民家十萬三千餘棟、人民被殺者十二萬餘人、比較的安地地方への避難民百五十七萬餘人財産の損失總額三億二千二百九十四萬九千九百九十九兩（昨年八月末調）と言はれる。江西全省八十一縣中完全に共産軍の勢力下に歸したるもの卅七縣、半ば勢力下に歸したるもの卅八縣、官軍の完全に保持するは省城、南昌外數縣にすぎない。其數城市以外の農村は殆んど共産軍の範圍に入つた状態である。

支那は由來農業國で従來自給自足するに充分であつたが長年の戰亂及天災苛税で農村は荒廢し、人口七割以上を占むる農民の購買力が減退して來たのは當然で、引いて此が極東貿易の不振を來した原因になる事も亦當然の結果と言はねばならない。

試みに上述の支那動亂及共産軍の暴行或は飢饉の如き天災が貿易上に及した影響を支那海關統計より觀察して見よう。左に近年の貿易總額を示せば（單位海關兩）

年次	輸入額	輸出額	總額
一九二六年	一、二二四、二二一、二五三	八六四、二九四、七七一	一、九八八、五一六、〇二四
一九二七年	一、〇二二、九三二、六二四	九一八、六一九、六六二	一、九三二、五五一、二八六
一九二八年	一、一九五、九六九、二七一	九九一、三五四、九八八	二、一八七、三二四、二五九

一九二九年 一、二六五、七七八、八二一 一、〇一五、六八七、三一八 二、二八二、四六六、一三九

即ち一九二七年は年初に漢口事件——排英示威運動起つて暴徒漢口英租界を占領したる事件——勃發し、三月には南京事件あり、其間武漢に進出した國民軍は長江に沿ふて上海を占領し漸次長江を越えて北上しつゝ、あつた年で同年の貿易状態極めて悪く之を前年に比較すれば輸入は一億一千餘萬海關兩の減少である。併し輸出は反對に五千四百萬兩の増加を見たのは北支及滿洲方面が割合に平穩であつたためであるが共産軍の最も跳梁した長江沿岸各港の貿易は非常な打撃を受けて居る。

次に貿易額を示せば、（單位海關兩）（長江沿岸各港とは重慶、萬縣、宜昌、沙市、長沙、兵州、漢口、九江、蕪湖、南京、鎮江の各港を言ふ）

年次	輸入額	輸出額	總額
一九二六年	七四、四三三、一二四	三三、一八九、〇四四	一〇七、六二二、一六八
一九二七年	二六、六九四、四七九	一三、六四六、一〇四	四〇、三四〇、五八三
一九二八年	六六、二八三、三二〇	三二、六五二、四二〇	九八、九三五、七四〇
一九二九年	五一、九五二、三六七	三四、四三六、二七〇	八六、三八七、六三七

即ち一九二六年は總額一億七百萬兩なるに一九二七年は僅四千萬兩にすぎず實に半額にも達しない激減振である。又輸出に於いて見るに輸入額は三分の一の激減、輸出は半減の状態である。又支那貿易總額の半分を占めて居る上

海の貿易額を見るに(單位海關兩)

年次	輸入額	輸出額	總額
一九二六年	五九六、五五五、四〇五	三六一、八九九、九四〇	九五八、四五五、三四五
一九二七年	四五五、三一七、一四四	三三〇、五〇六、〇四七	七八五、八二三、一九一
一九二八年	五四八、六〇七、八八九	三六二、二二〇、一四八	九一〇、八二八、〇三七
一九二九年	六二四、六四五、八二三	三六四、〇四〇、八九一	九八八、六八六、七一四

一九二七年は前年に比較して約一割八分の減少である。

然るに一九二八年は國民政府の統一によつて阻碍されたる交通の復興によつて從來各地に於ける在荷の缺乏を補給したので全國貿易は前年に比し、輸入に於て一割八分、輸出に於て八分各増加した。更に之を長江沿岸各港の貿易高に就いて見るに輸入に於て二倍強、輸出約二倍の増加を見て一九二六年の状態に恢復した。又上海は輸入額五億四千萬兩で前年より二割、輸入は三億六千萬兩で約一割の増加を示して居る。右の如く一九二八年に於る支那の對外貿易が過去の記録を破つて二十億の關門を突破する盛況を呈したのは年末に於る關稅増徴(一九二九年二月一日より七種差等稅率を實施した事)の見越輸入の激増も亦有力なる一因たるを疑はぬが要するに其全局を支配した最大原因は政局の安定に歸せざるを得ない。即ち北伐完成によつて全年を通じ小康を保ちし上海殊に長江沿岸の諸港に於ける變態的輸入激増は此事實を證明して居る。而も其間銀相場は漸落歩調を辿つて來て居るにも拘らず同年の貿易が斯くも盛況を呈したのである。

況を呈したのである。

一九二九年は東支鐵道に關する露支紛争によつて遂に國境は閉鎖された爲滿洲貿易並に茶其他の取引は多大の影響を蒙つた。而も國內に於ては編遺會議の結果湖北、湖南に於て廣西派の反蔣運動起つて中部支那は再び戰亂の巷となり加ふるに共產黨漸く暴威を振つて來たので長江沿岸各港の貿易額は八千六百萬兩にして前年に比して一割二分の減少を示した。

銀本位國たる支那の貿易額は金銀比價の變動甚しい爲其實質額を知る爲に之を磅に換算して見ると次の如し。

年別次	輸入	輸出	總額	對磅平均 爲替相場
一九二六年	一七五、〇七四、〇四六	一三四、五九五、九〇四	三〇九、六六九、九五〇	2/1
一九二七年	一四二、七〇七、二九五	一二九、四二〇、一一四	二七二、一二七、四〇九	2/9
一九二八年	一七四、七三三、六二五	一四四、八三〇、七六七	三一九、五五四、三九二	2/11 1/2
一九二九年	一六七、七八一、六一七	一三四、六三一、四六八	三〇二、四一三、〇八五	2/7 1/2
一九三〇年	一一五、〇〇〇、〇〇〇	一〇一、〇〇〇、〇〇〇	二一六、〇〇〇、〇〇〇	1/11 1/4

(×上海商務官發表昨年度貿易總額輸入拾壹億五千萬兩、輸出拾壹億五千萬兩の磅換算額、相場は Official T.)

T. Opening Quotation on London の一年間の最高最低平均相場なり)

一九三〇年は統計未完成で推定額であるが地方軍閥の反政府運動が早春から晩秋にかけ八ヶ月間繼續した爲之が買

經濟聯盟既刊刊行物

昭和五年四月以降

	頁
英國の産業復興運動の一端に就て.....(土岐 幸君講演).....	0.25
鐵道に於ける産業の合理化に就て.....(佐堂中雄君講演).....	0.50
日支關稅協定並に協定品目明細表.....(神戶正雄君講演).....	0.10
現行稅制特に所得稅及營業收益稅に就て.....(杉村謙太郎君講演).....	0.10
産業の合理化を如何に實行すべきか.....(末野崎一重君講演).....	0.10
歐洲の近況並に世界當面の重要諸問題.....(西川博一君講演).....	0.10
「ソヴェト」聯邦事情.....(調査報告第三號).....	0.10
米國關稅改正の本邦對米貿易に及ぼす影響.....(調査報告第四號).....	0.10
鐵道の近況.....(長岡春一君講演).....	0.10
「ブラジル」より歸りて.....(有吉 明君講演).....	0.10
國際賣買規定統一條約案に對する意見.....(調査報告第五號).....	0.10
歐洲關稅改正ニ關スル調査資料.....(調査報告第六號).....	0.10
歐洲に於ける鐵鋼業の國際競争と貨價率.....(調査報告第七號).....	0.20
英國政府總業調査委員會報告書.....(調査報告第八號).....	0.10
英國經濟使節(British Economic Mission)の 絲東來訪に就て.....(調査報告第九號).....	0.10
The International Chamber of Commerce and Industrial Statistics (第十八回國際統計協會年報).....(國際商業會議所日本國內委員會).....	0.20
固定資産原價減却に關する參考資料.....(調査報告第十號).....	0.25
A Short Story of the Financial Recovery of France (第十八回國際統計協會年報附録).....(調査報告第十一號).....	0.15
英國經濟使節の日本に於て調査したる 英國輸出貿易法の缺點.....(調査報告第十二號).....	0.10
事業所得に對する稅制建議參考資料.....(調査報告第十三號).....	0.20
第十九回國際統計協會會議に關する報告(國際商業會議所 本館への報告).....(國際商業會議所日本國內委員會).....	0.20
An Outline of the Present Economic Conditions in Japan (國際商業會議所 年報の附録に對する回答).....(國際商業會議所日本國內委員會).....	0.15
世界不況に就て 一特に米國の事情を参照したる(調査) (調査報告第十四號).....(調査報告第十四號).....	0.15
The Existing Economic Crisis (國際商業會議所年報 附録).....(國際商業會議所日本國內委員會).....	0.20
絲東貿易に關する統計表(國際商業會議所年報附録) (國際商業會議所日本國內委員會).....	0.65
國際聯盟第十一回總會に於ける經濟問題.....(調査報告第十五號).....	0.10
歐米に於けるラヂオの國民的及國際的利用.....(調査報告第十六號).....	0.10
銀の問題.....(調査報告第十七號).....	0.15

支那は近來利權回收、關稅引上等に依り上記銀價暴落、政情不安の貿易上に及ぼす惡影響を更に加重する傾向にあるが、極東に一國を構へたる吾人としては、隣國支那が一日も早く平定統一され、其包藏する無限豊富の資源を開發し、他方法律其他の制度を整へて、正當公平なる順路に依つて有無相通するの貿易を益々盛大にし、内は以て國民利權を計り外は以て世界人類の衛生に資するの道を講ぜん事を切望するのである。

即ち反蔣戰の最も影響したる天津海關は二百五萬九千兩の激減であり、又漢口は七十六萬七千兩の減收を示した。併も之れは一九三〇年二月金建關稅を實行した上のことである。

年	天津海關	漢口海關
一九二九年	千海關兩	千海關兩
一九三〇年	一五、二八五	八、二六四
	一三、二二六	七、四九七

易上に及ぼした影響は銀價の暴落と相俟つて非常なものであつたことは想像される、勿論其幾部が政情により幾部は銀安によるかは知ることは出来ない。又最近總稅務司の發表した海關收入より見て一九二九年と一九三〇年度を比較すれば、